



令和4年度 事業報告書

社会福祉法人 広寿会



○特別養護老人ホームひらた

○短期入所生活介護事業所ひらた



○小規模多機能型居宅介護事業所 やまの里たまに



令和4年度
社会福祉法人広寿会 事業報告書
目次

1. 法人部門.....	3
【運営理念】	3
【基本方針】	3
〈ひろた職員心得〉	3
【令和4年度目標の評価】	4
〔1〕 法人の概要	6
〔2〕 役員等の状況	6
〔3〕 令和4年度評議員会開催状況	6
〔4〕 令和4年度理事会開催状況	7
〔5〕 職員の状況	8
2. 施設部門.....	9
【令和4年度目標の評価】	9
〔1〕 施設部門の状況	9
(1) 施設の種類	9
(2) 運営状況（利用状況）	10
〔2〕 事業内容	11
(1) ユニットの状況	11
(2) 行事報告	11
〔3〕 委員会	12
(1) 施設ケア会議	13
(2) サブリーダー会	14
(3) 事故防止委員会	14
(4) 排泄委員会	15
(5) ユニット会	16
(6) 身体拘束廃止委員会	16
(7) 褥瘡予防委員会	18
(8) 感染予防対策委員会	18
(9) 医療安全管理委員会	18
(10) 苦情検討委員会	19
〔4〕 その他の会議	20
(1) 第三者委員会	20
(2) 利用者相談会「いどばた会議」	20
(3) 家族の会	20

3. 在 宅 部 門.....	21
〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた	21
【令和4年度目標の評価】	21
(1) 運営状況	21
(2) 苦情受付	22
(3) 地域連絡会	22
〔2〕 やまの里たまたに	22
【令和4年度目標の評価】	22
(1) 運営状況	23
(2) 事業内容	24
(3) 事故報告	25
(4) 運営推進会議.....	25
(5) 苦情受付	26
(6) 在宅ケア委員会	26
(7) 業務改善委員会	27
〔3〕 砥部町デイサービスセンター（砥部町受託事業）	27
【令和4年度目標の評価】	27
(1) 運営状況	28
(2) 事業内容	29
(3) 事故報告	30
(4) 苦情受付	32
(5) 在宅ケア委員会	32
〔4〕 砥部町地域支援事業（砥部町受託事業）	32
(1) 家族介護支援事業（やまの里たまたに実施）	32
(2) 地域住民グループ支援事業（砥部町デイサービスセンター実施）	32
(3) いきいき見守り配食サービス	33
〔5〕 支援ハウス（砥部町受託事業）	33
(1) 運営状況	33
(2) 行事報告	33
4. 会 議 等.....	34
〔1〕 運営委員会	34
〔2〕 職員会	34
〔3〕 広報委員会	35
〔4〕 防災委員会	35
〔5〕 給食委員会	36
5. 研 修 等.....	40

1. 法人部門

【運営理念】

「ノーマライゼーションの理念を大切に」

- 1 自立支援〈できるだけ自立した生活の支援〉
- 2 自己決定〈できるかぎり本人による選択・決定〉
- 3 権利擁護〈いつの場合も個人の権利を守る〉

【基本方針】

「一人ひとりの暮らしを支えるケア」を目指して

- 1 利用者一人ひとりを見つめ、最期まで尊厳ある生活の実現
- 2 利用者の人権、プライバシーの保護
- 3 在宅高齢者の生活支援、QOLの向上
- 4 保健・医療・福祉の連携を強め、地域の福祉ニーズに応える
- 5 研修及び自己啓発等により職員の資質向上を図る

〈ひろた職員心得〉

今日も一日

1. さわやかな挨拶を交わします

2. 明るい笑顔で接します

3. 想いやりのある言葉で接します

4. 愛と真心を持って介護します

これらを胸に

働ける幸せに感謝します

【令和4年度目標の評価】

(1) 満足度の高いサービス提供と地域に根差した事業所づくり

4年度は、広寿会にとって新型コロナウイルスを最も身近に感じる年であった。職員は週2回の抗原検査を実施しながら業務にあたったが、残念なことに12月に砥部町デイサービスセンターにおいて、さらに1月にはやまの里たまたにて集団感染が発生してしまった。砥部町デイサービスセンターでは、陽性者が確認された翌日から通所事業を休止し、訪問での支援に切り替え、体調確認や抗原検査、自宅療養されている利用者のケアを行った。また、希望者には昼食を弁当で届ける等、広寿会でできる限りの支援を行った。やまの里たまたみでは、各利用者のかかりつけ医師に相談しながら対応したが、陽性者の入院治療がかなわず、療養期間終了まで事業所で対応することとなった。感染した利用者の早期回復と感染の拡大防止に細心の注意を払い広寿会全体で対応したが、特に陽性者の対応をした職員の負担は相当なものであったと感じる。また、職員の感染や濃厚接触となることによる勤務シフトの大幅な変更は全事業所に及び、出勤率によってケアの内容を見直す等の調整を行ってきた。

感染予防に重きをおいた1年となったため、利用者の満足度を高めることについては十分でなかったことは否めない。面会の制限も多く、アクリル板や窓越しの面会で大切な家族に触れることができない、言葉を十分に伝えることができない家族のもどかしさは痛いほど伝わり、対応する職員にとっても心苦しい状況であった。今後、新型コロナウイルスが5類に移行しても、福祉施設においては引き続き感染状況を注視しながらの運営になる。リスクと隣り合わせの状況は続くが、工夫しながら楽しみのある施設づくりをしていきたい。

広田地域の人口は減少の一途を辿っている。高齢化も一段と進んでおり、一部地域では住民同士の支え合いも儼然しない状況になってきている。そのような中12月には近年にない大雪に見舞われた。多い所では50センチを超える積雪量に加え倒木による停電が発生し、在宅サービスを利用する方は大きな打撃を受けた。除雪に時間がかかり送迎も不可能な状況が数日続いたが、地域住民と連携し状況の把握に努めた。また、砥部町災害対策本部や担当課と連携し、広寿会が担当する利用者の情報提供とサービスについての相談を行った。人命に影響を与えかねない状況であったが、地域住民との連携とサービスの調整によって乗り切ることができたと感じる。

このように、4年度は感染症及び自然災害について多くの経験と課題を得た1年だった。これらのことを事業継続計画に反映させ、地域唯一の社会福祉法人として有事の際にしっかりと役割を果たすことができるよう努めていく。

(2) 職員の資質、専門性の向上と働き甲斐のある職場づくり

コロナ禍での事業も3年が過ぎ、また働き方改革の推進の影響もあって、職員の学びの方法も大きく変わった。施設内研修をWebで実施するようになり、休日に研修のために職場に来るという負担は軽減されたと感じるが、受講時の表情等から理解度を把握できる集合型研修のメリットは大きい。目的は研修を受けることではなく、それをいかに現場でのケアで実践できるかであり、その意識が専門性の向上と成長につながると感じている。Web研修の利点は生かしつつ、徐々に再開されている集合型の外部研修にも積極的に参加を促し、スキルアップを支援

していく。

また、4年度は介護福祉士の実務者研修を受講した職員1人が、国家試験に臨み無事合格した。介護支援専門員の試験にも2人がチャレンジしたが、これについては残念な結果となった。働きながらの資格取得は容易ではないが、知識の習得とモチベーションの向上には確実につながるため、引き続き支援を続けていく。

労働人口の不足により、職員の確保はますます困難になっている。法人の立地条件や規模においても広寿会は有利とはいえないことから、4年度から外国人技能実習生の受け入れを開始した。先進的に受け入れを行っている事業所を参考に、職員への事前研修やマニュアルの作成等の準備を進め、9月から2人が広寿会の仲間となった。所属する特養ひろたでは不安も大きかったと思うが、実習指導員を中心に丁寧に指導してくれており、また実習生も謙虚な姿勢で取り組んでいることから、利用者からも好評で職員の不安もすぐに解消した。この技能実習生の受け入れによって、丁寧な指導方法が定着し、さらなる働きやすさにつながることを期待したい。

(3) 未来を見据えた活力のある法人経営

4年度は、世界情勢に大きく影響された年でもあった。物価の高騰や感染対策への支出が大幅に増え、事業費及び事務費の計は、収入に対して3年度比で1.7パーセント上昇した。小規模法人はスケールメリットの面で非常に不利になることから、これまでにない厳しい運営になってきている。あらゆるモノが高騰している状況の下で施設運営を安定させるために、4年度は経費の適正化を目標に業務委託の中で最も大きい給食委託業務の見直しを行った。労働人口の不足と物価の高騰でどの業態も厳しい状況には変わらないが、食は安全性に加え利用者の大きな楽しみでもあり、また開設以来取り組んできた「食＝命」をしっかりと継続していくことを念頭に準備を進め、5年度から新たに広寿会の食を支えてくれる業者と契約に至った。

各事業所とも、稼働目標の達成を目指し1年間がんばってくれたが、職員の確保だけでなく、利用者の獲得もより厳しくなっている。特養ひろたでは毎月のように死亡での退居があったが、退居から新規利用者を迎えるまでの期間に平均8日程度かかっており、平成29年度の平均3日と比較すると入居の調整が非常に難しくなっている。さらに、待機者数も3年度の7割程度まで低下しており、数年前から都市部の特養では定員が埋まらないといわれていた状況がついに身近に迫ってきていると感じる。入居申込をしている方も、その多くは療養型病床や施設におられるため緊急性の高い方が少ない。特養ひろただけでなく、在宅部門では新規の獲得はさらに困難となっていることから、各事業所の特徴をしっかりとアピールしていく必要があると感じている。

3年度末で事業を廃止した「たちばなの家じゃんけんぼん」の跡地については、法人での新たな活用は難しいと判断し処分する方向で売却先を探していたが、建物を含め有効活用してくれる先がようやく見つかった。所管先である愛媛県にも確認しながら進め、2月をもって処分に至った。

今後の施設運営においてはシビアな状況が続くと思われるが、次期報酬改定の方向性を確認しつつ中長期の計画に落とし込み、広寿会の未来予想図を描いていきたい。

〔1〕 法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 広寿会
2. 所在地 愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地
3. 法人の事業
 - ① 第1種社会福祉事業
特別養護老人ホームの経営
 - ② 第2種社会福祉事業
 - (イ) 老人短期入所事業の経営
 - (ロ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ハ) 地域密着型通所介護事業の経営
 - (ニ) 介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業の経営
 - (ホ) 介護保険法に基づく介護予防通所介護事業又は第1号通所事業の経営
 - (ヘ) 生活支援ハウスの経営
 - (ト) 小規模多機能型居宅介護事業の経営
 - ③ 公益事業
居宅介護支援事業

〔2〕 役員等の状況

1. 構成（令和5年3月31日現在）

評議員	定数	7人
理事	定数	6人
監事	定数	2人

〔3〕 令和4年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議事	
令和04年06月26日 (評議員) 7人	報告	第1号 令和3年度事業報告について
	議案	第1号 令和3年度計算書類の承認について
令和04年12月30日 (決議の省略)	議案	第2号 基本財産の処分について
令和05年03月03日 (決議の省略)	議案	第3号 定款変更について
令和05年03月27日 (評議員) 7人	報告	第2号 理事長運営報告について
	議案	第4号 令和4年度第一次補正予算案の承認について
		第5号 令和5年度事業計画案の承認について
		第6号 令和5年度当初予算案の承認について

〔4〕令和4年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議事	
令和04年06月10日 (理事)6人 (監事)2人	議案	第1号 令和3年度事業報告並びに決算の承認について 第2号 評議員会の招集について
令和04年10月20日 (決議の省略)	報告	第1号 理事長職務執行状況報告について
	議案	第3号 給食業務委託見直しについて 第4号 固定資産の取得に係る指名競争入札について 第5号 第三者委員の任期について
令和04年12月20日 (理事)6人 (監事)2人	報告	第2号 役員の研修参加報告について
令和05年02月21日 (決議の省略)	議案	第12号 定款変更について 第13号 評議員会の招集について
令和05年03月16日 (理事)6人 (監事)2人	報告	第3号 理事長職務執行状況報告について
	議案	第14号 理事長専決事項に係る同意について 第15号 規程の一部改正について 第16号 令和4年度第一次補正予算案の同意について 第17号 給食業務委託契約の締結等について 第18号 令和5年度事業計画案の同意について 第19号 令和5年度当初予算案の同意について 第20号 固定資産の取得について 第21号 第三者委員の選任について 第22号 評議員会の招集について 第23号 自動車保険契約について

〔5〕 職員の状況

【職員数】

単位：人

	常勤				短時間勤務職員		計	
	正規職員		準職員		3年度	4年度	3年度	4年度
	3年度	4年度	3年度	4年度				
男	12	11	0	1	1	1	13	13
女	16	13	3	5	16	18	35	36
計	28	24	3	6	17	19	48	49

※ 各年度3月31日現在

※ 技能実習生は短時間勤務職員に含む

【平均年齢】

単位：歳

	正規職員	準職員・短時間 勤務職員	全体
男	39.6	67.0	43.8
女	38.9	54.0	48.5
平均	39.2	55.0	47.3

※ 令和5年3月31日現在

【勤続年数】

単位：人

		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	平均	
常勤職員	正規職員	男	0	1	2	4	1	3	9年8か月
		女	0	1	0	4	2	6	
	準職員	男	1	0	0	0	0	0	/
		女	0	0	0	4	1	0	
短時間 勤務職員	男	0	0	1	0	0	0		
	女	2	4	3	7	2	0		
計		3	6	6	19	6	9		

※ 令和5年3月31日現在

【有資格者数】

単位：人

	看護師		准看護師		社会福祉士		介護福祉士		管理栄養士		介護支援専門員	
	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度
男	0	0	0	0	0	0	9	8	0	0	2	2
女	4	4	4	4	0	0	14	14	2	2	2	2
計	4	4	4	4	0	0	23	22	2	2	4	4

※ 1人で2以上の資格を有するものについては、それぞれに計上

※ 各年度3月31日現在

2. 施設部門

【令和4年度目標の評価】

【重点目標】 利用者の笑顔あふれる施設づくり

4年度は記録システムを少しずつ有効に活用できるようになり、職員からの気づきや記録を基に定期的にダブルチェックを実施した。水分摂取量の調整や食形態の変更、内服薬の検討等を介護、看護、医師との連携にて早期対応ができ、入院件数は5件、延べ入院日数も48日と3年度に引き続き目標の100日を大幅に下回ることができた。

感染状況を見ながら、四季の移り変わりを感じてもらえるようなプランを計画し、外出支援等できる範囲で実施した。また、利用者が一番楽しみにされているユニットでの食事作りでは、感染予防を考慮しつつ、野菜の切り分け等のごしらえをしていただき、できる限り参加できるよう配慮した。一緒に作るという作業を通して、コロナ禍前のような利用者の楽しそうな笑顔を見ることができた。面会については窓越し等制限を設けていたが、徐々に緩和し施設の中で直接家族との面会ができるようになった。利用者と家族が楽しそうに会話される様子を見ると、感染状況が落ち着いてきたことを心から嬉しく思う。

利用者の入退居が多い中で、職員が新型コロナウイルスに感染したり濃厚接触者になったりすることが増え、その都度大幅な勤務変更や人員を減らして業務を行うことも多かった。感染防止を最優先にケアを行わざるを得ず、職員の業務負担は増えてしまったが、リーダー・サブリーダーを中心に各ユニットでケアの見直しを行い、大きな混乱なく切り抜けることができた。

施設内研修については、4年度もWeb研修を継続した。以前の研修会と比べると、個々によって習熟度に違いが見られている。職員一人ひとりその場で気づいての対応、理解はできているが、検討することまではできていない。今後はユニット会の方法を再検討し、自分達で考えて意見を出し合う場面を作っていく、レベルアップを図っていきたい。

4年度の死亡退居者13人のうち、ターミナル診断を受け施設で看取った方が7人、ターミナル診断を受けずに亡くなった方が6人だった。この6人については、ターミナルケアへの移行時期だったと思われる。身体状況やバイタルの低下をしっかりと見極めることができているならば、施設で、よりその人らしい最期をむかえることができたのではないかと思う。

5年度も引き続き感染対策を実施していきながら、楽しみのある生活を提供していきたい。また、状態変化の早期発見により状態低下を見極める力を養い、終末期への移行を含めその人らしい生活支援ができるよう職員個々のレベルアップを図っていく。 (文責：上谷)

〔1〕施設部門の状況

(1) 施設の種類

- | | |
|--------------------------|--------|
| ①特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設） | 定員 30人 |
| ②老人短期入所事業所（指定短期入所生活介護事業） | 定員 6人 |

(2) 運営状況 (利用状況)

【指定介護老人福祉施設】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均介護度	4.4	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1
稼働率(%)	100.0	99.8	99.5	97.4	100.0	99.3	99.2	99.5	98.0	96.2	95.4	100.0	98.6

※ 3年度稼働率 99.4% (空床利用含)

【指定短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用件数	13	13	13	13	11	12	10	11	12	12	11	11	11.8
稼働率(%)	98.3	91.9	99.4	92.4	93.0	93.8	84.9	96.6	87.0	84.9	83.3	90.8	91.3

※ 3年度稼働率 95.4%

※ 4年度全体(特養+短期)稼働率 97.5% 3年度全体(特養+短期)稼働率 99.4%

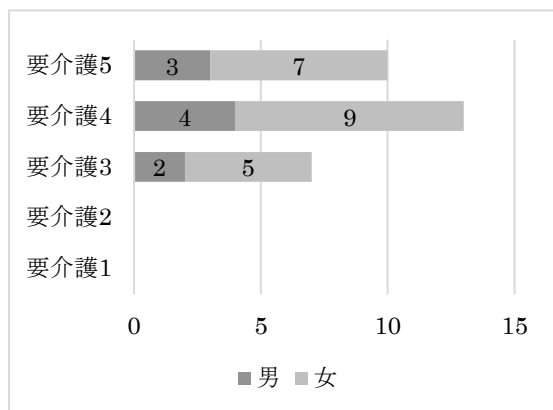
(3) 利用者の状況

【入居・退居状況】

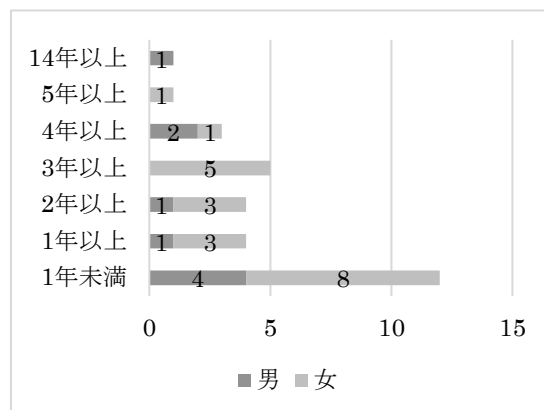
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	0	0	2	1	1	1	1	1	1	3	2	0	13
退居	0	1	1	2	0	1	1	1	1	4	1	0	13

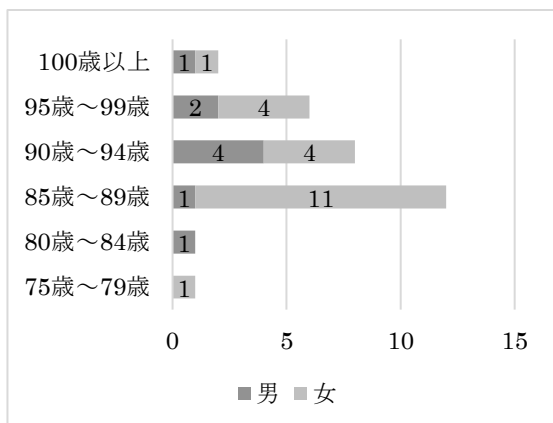
【要介護度】 令和5年3月31日現在



【入居期間】 令和5年3月31日現在



【年齢区分】 令和5年3月31日現在



【入院経過状況】

件数	入院日数	入院期間	入院原因
1	4日	R04.07.13 ~ 07.17	敗血症（入院中に死亡）
2	20日	12.22 ~ R05.01.12	肺炎
3	4日	12.28 ~ R05.01.01	肺炎（入院中に死亡）
4	6日	R05.01.04 ~ 01.11	総胆管結石性胆管炎
5	14日	02.09 ~ 02.24	心不全・肺炎
計	48日		

※ 3年度入院 6件 延べ入院日数 36日

※ 入退院日は入院日数に含めない

【入居申込状況】 令和5年3月31日現在

単位：人

地区	要介護3以上	要介護2以下	計
広田地区	7	4	11
内子町(小田地区)	11	7	18
その他	6	5	11
計	24	16	40

〔2〕事業内容

（1）ユニットの状況

4年度は感染対策を行いながら、毎月ユニットで交互に食事作りを行った。旬の食材や「ひろた農園」で採れた野菜を使って、希望の物を作って食べていただいた。利用者も食事作りに参加することで生き生きとした表情を見せ、「またやろうやな」と大変喜ばれていた。

また、少しずつ外出や地域行事に参加ができるようになり、広田地区運動会やひろたフェスタ等、地域との交流の場を持つこともできた。

9月より外国人技能実習生を2人受け入れ各ユニットに配属した。始めは、職員、利用者ともに不安があったが、実際に一緒に仕事をしていく中で徐々に関係ができ、楽しく業務に取り組むことができるようになった。言語の壁もあり、指導は難しかったが、徐々に日本語や業務を覚えて、利用者とのコミュニケーションや介護等できることが増えた。それにより職員の気持ちにもゆとりができ、効率良く業務を行えるようになってきていると感じる。（文責：梅原、藤岡）



（2）行事報告

（目的）年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

（実施内容）

定期開催：食事作り・おやつ作り

外出行事：尾首の池・断層公園・施設近隣（お花見）

個別対応：外出、お墓参り

施設内行事：お花見弁当、居酒屋、秋刀魚の炭火やき、デザートバイキング、回転寿司他

ボランティア：散髪ボランティア（偶数月）

《振り返りと課題》

4年度は個別対応の外出企画は4件と少なかったが、利用者や家族の希望を聞き、自宅への外出や墓参りに出かけた。短い時間ではあったが、現地で家族と過ごす時間や故人を偲ぶ思いに触れることができた。また、やまの里たまたみや砥部町デイサービスセンターとの合同レクリエーション、広田小学校の運動会への参加等、地域や事業所との交流も状況をみながら実施できた。

利用者の楽しみの一つとなっている食事作りやおやつ作りは、感染状況に応じて対策をとりながらできる限り実施した。ひろた農園での農作業や収穫から調理までを一緒に行い、季節にあわせた料理は利用者の五感を刺激することができ、利用者、職員ともに楽しいひと時を過ごすことができた。また、コロナ禍で中止していた回転寿司を3年ぶりに実施でき、喜びと感謝で大盛況であった。

終わりの見えなかった新型コロナウイルスも収まりつつある状況となり、家族や地域との関わりも今後増えていくと思う。感染対策をしっかりと行いながら、利用者、家族、職員の笑顔あふれる日々になればいいと思う。5年度はたくさんの利用者との外出を実現していきたいと感じた。

（文責：吉見）

《行事写真》



【お花見・尾首の池（小田地区）】



【秋刀魚の炭火やき】



【自宅へ外出（小田地区）】



【居酒屋】



【デザートバイキング】



【自宅へ外出：広田地区】

〔3〕委員会

【委員会の種類と構成】

利用者の生活の質の向上、健康管理やケアの方法等について、関係職員で構成する会議及び委員会で専門的に分析・検討し、方針決定する。

委員会等の名称	職名等	施設長	部長	主任	副主任	生活相談員	管理栄養士	介護支援専門員	ユニットリーダー	サブリーダー	ユニット職員	その他関係職員
(1) 施設ケア会議		●	●	●	●	●	●	●	●			
(2) サブリーダー会				●	●	●				●		
(3) 事故防止委員会		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(4) 排泄委員会				●	●	●				●		
(5) ユニット会				●	●	●	●	●	●	●	●	
(6) 身体拘束廃止委員会		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(7) 褥瘡予防委員会		●	●	●	●	●	●	●	●			
(8) 感染予防対策委員会		●	●	●	●	●	●	●	●			
(9) 医療安全管理委員会		●	●	●	●	●	●	●	●			
(10) 苦情検討委員会		●	●	●	●	●	●	●	●			●

※ 「その他関係職員」とは、在宅部門や管理部門職員で、協議事案に直接または間接的に関係する職員

(1) 施設ケア会議

(開催日) 毎月第3水曜日

(主な協議事項)

ユニット状況報告、業務連絡、職員指導、新型コロナウイルス感染対策

開催日	協議事項
R04.04.20	記録の入力 事故検討 家族面会方法
05.18	見守り機器導入 機械室等修理
06.15	記録の入力 洗濯機使用方法 外国人技能実習生連絡
07.20	食中毒注意喚起 職員ユニット移動
08.17	新型コロナウイルス感染報告 外国人技能実習生連絡
09.21	物品使用方法 外国人技能実習生報告 面会再開
10.19	消臭剤使用状況 避難訓練報告
11.15	記録入力方法検討 法人監査報告
12.21	ショートステイ利用者の洗濯物対応方法 介護ロボット購入
R05.01.18	利用者のユニット移動
02.15	福祉避難所報告 必要物品購入申請
03.15	備品破損届 面会方法変更 外国人技能実習生 新規入職者

《振り返りと課題》

4年度は、3年度に導入した記録システムについて記録の方法や内容を充実させていくことに加え、初めての外国人技能実習生受け入れの準備から指導について検討を行った。また、新型コロナウイルス対策と面会の方法についても状況に応じて検討した。

記録システムについては、入力方法について検討を重ね、毎日の定型記録に関しては一括で入力できるようにした。それにより入力の時間が短縮でき、状態変化や日々の様子等の記録が充実できるようになってきた。誤変換や入力もれについても継続的に検討した。

新型コロナウイルスについては常に注意喚起を行い、感染状況に合わせて面会の中止や再開を繰り返し行ってきた。職員に濃厚接触者や感染者が出た際は、大幅な業務の見直しや勤務調整で非常に苦労したが、その都度対応方法等の振り返りと課題の洗い出しを行いケアを見直す作業を続けた。

技能実習生は感染のリスクと隣り合わせの日々が続く中、意欲的に業務に取り組み任せられる業務も増えてきている。
(文責：吉見)

(2) サブリーダー会

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 事故検討、事故防止対策、ケアの方向性・確認

《振り返りと課題》

4年度も排泄ケアや事故検討を中心に実施をした。会議で難しい案件に関しては、施設ケア会議へ議題を上げ再検討を行っている。

(3) 事故防止委員会

①件数・・・92件

ヒヤリハット・・・30件(特養28件・短期入所2件)

《危険度0》・・・事故を未然に防ぐことができた 3件

《危険度1》・・・事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 27件

事故報告書・・・62件(特養57件・短期入所5件)

《危険度2》・・・処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン観察は継続的に必要 46件

《危険度3》・・・簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用) 16件

※3年度件数…122件(ヒヤリハット46件 事故報告書76件)

②事故・ヒヤリハットの内容と件数

ヒヤリハット報告書内容別発生件数	
内出血	7
ベッドから転落	6
車椅子から転落	1
一人で歩かれていた	3
ずり落ちかけ	1
誘導中	3
ベランダに出る	1
異食	2
その他	6

事故報告書内容別発生件数	
皮膚剥離	14
爪から出血	4
介助中の内出血	1
転落	26
転倒	10
バルン抜去	1
胃ろうチューブ自己抜去	1
配薬ミス	2
誤嚥・誤飲	3

③ 原因

原因	件数	原因	件数
確認不足	28	行動予測不十分	22
不注意	10	利用者の不調	3
マニュアルが守れていない	4	利用者の不注意	4
介護技術の問題	1	その他	3
見守り不十分	17		

④ 分析

事故等の総件数は122件から92件と減少した。中でも皮膚に関する事故が50件から22件に減少した。皮膚が弱く、軽い衝撃で内出血のできやすい利用者は依然として多いものの、利用者の状態に合わせた介護ロボットの活用や介助方法の見直しを行い、統一したケアを継続できていることが大幅な減少につながったのではないかと思う。

また、3年度にはなかった胃ろうチューブの自己抜去が1件発生した。ポジショニング等、対応策を検討し試したが、再発の可能性があることから、やむを得ず身体拘束を実施することとなった。毎月、身体拘束廃止に向けて検討し、徐々に再発の可能性が減少してきたため3か月で拘束解除としたが、継続的に観察は必要である。

4年度は、13人という過去最多の入退居があった。認知症のある利用者は環境が変わることで行動予測が難しく、さらに下肢筋力低下が見られる利用者は転倒の危険性が高いため、センサーマットや見守り機器を活用して迅速に対応できるよう努めた。その他、新型コロナウイルス感染や濃厚接触等による職員の不足と利用者の隔離対応で見守りがしにくい状況もあったが、見守り機器を活用することにより、入院や受診が必要な重大な事故が発生することなく対応することができた。

センサーマットや見守り機器を使用することで安心感は得られるものの、使用が増えるとその都度訪室する負担が増えたり、利用者の束縛感が募ったりすることが課題として挙げられる。機器類をうまく活用しながら、リスクの高い利用者の行動分析を行い、環境整備等検討し負担軽減につなげていきたい。

(文責：山田)

(4) 排泄委員会

(目的) 排泄アセスメントを行い、排泄パターンの見直しと排泄用品の適正使用を検討する。

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 排泄アセスメント・排泄用品の見直し

《振り返りと課題》

4年度は年間延べ32人の尿量測定と排泄アセスメントを実施した。3年度の排泄ケア用品の見直し後も継続して個々にあったトイレの誘導時間や使用する排泄ケア用品の検討を行い適正使用と経費削減に努めた。その結果、大幅な経費削減に成功した。新型コロナウイルスの影響で出勤者が確保できない時期があり、その都度排泄介助について見直しを行った。一時的な対応ではあったが、パッド交換やトイレ誘導の回数を減らすことにもどかしさを感じた。

今後も尿量測定や排泄アセスメントを継続し、日々の細やかな観察を行い、個々にあった快適な排泄ケアを検討していく。

(文責：吉見)

(5) ユニット会

(目的) ケアの方向性の検討・確認 委員会報告を行う。

(主な協議事項) ケース検討 リハビリ方法 褥瘡予防 身体拘束廃止 感染予防

各委員会報告 栄養ケアマネジメント ヒヤリハット・事故報告検討

《振り返りと課題》

新型コロナウイルス感染対策により、毎月1回書面で行った。

主に利用者の食事形態についての意見が多く、安全に食事が摂れるように状態に応じて食事形態を検討し、その都度見直しを行った。

4年度は13人が亡くなり利用者の入れ替わりが多かった。新規利用者に対しては、事前の情報を基に関わりながら、情報収集とケアの見直しを行い新しい生活に慣れていただけるよう努めた。

死後カンファレンスを実施した中で、「寂しくないよう家族との写真や花を飾ったり、音楽を流したりして工夫して環境整備を行った」「最期は家族に見守られて旅立てたので良かった」という意見があった一方で「本人が食べたいという思いはあっても、食べるもののリスクが高くなっていく利用者にどのように支援していけばいいか悩んだ」「明日しようと思っていたが、その日に亡くなられてしまいきなかつた」という意見もあった。反省点は今後のケアに向けて改善を随時行った。

感染対策の面では、パーティションの使用や席の間隔に注意して席替えを行い、利用者が安心して生活できるようリビングの環境整備もこまめに行った。職員に陽性者が出た際は感染が拡がらないよう、接触状況に応じてリビングと居室に分かれての食事介助や、見守りの必要な利用者への環境整備を行う等、緊急感染対策マニュアルに沿ってケアを行った。行動制限に対してストレスを感じている利用者が見られ、対応に苦慮することがあったため、これらを反省点として今後もユニット会議での検討やマニュアル整備につなげていきたい。

食事面では限られた職員での介助となるため、通常の時間での食事提供や食事回数の調整が必要な時期があった。利用者にしてできる限り負担にならないよう、随時検討し時間の見直しを行った。細部のケアについては、各ユニットでマニュアルを作成し、職員の気づきでその都度修正していった。これによって、ユニット職員が把握しやすく比較的スムーズに対応することができたと感じる。

(文責：梅原、藤岡)

(6) 身体拘束廃止委員会

(目的) 身体拘束を行わないケアを実践する。

(主な協議事項) センサーマット・ベッド位置・低床ベッド・介護ロボットの使用状況等

【使用状況】

単位：人

種別	年間使用人数		R5.3月末使用人数	
	特養	短期	特養	短期
センサーマット	8	6	5	1
低床ベッド	5	0	1	0
長いベッド柵	5	0	2	0
固定ロック柵	5	0	3	0
介護ロボット	4	0	1	0
見守りカメラ	5	1	0	0

緊急やむを得ない身体拘束ケアの実施及び解除についての状況経緯

日時	経過概要
R04. 10. 14	男性利用者の胃ろうチューブ自己抜去事故が発生
10. 24	身体拘束廃止委員会緊急会議を開催 会議内容：「再発防止・身体拘束廃止」の観点から、今後のケア方法について討議検討を実施。
10. 25	「緊急やむを得ない身体拘束ケア」を開始 ケア内容：腹部全体に腹巻を着用し、上服着用後にバスタオルにて胸部～大腿上部の広範囲を巻いて覆い、大きなV字クッションを両脇に装着し、バスタオルの上下隙間から手が胃ろうチューブ部位に触れないよう保護対応する。
11. 24	身体拘束に関する経過観察及び再検討(1 か月目) 会議内容：直接胃ろうチューブに触れる状況は見られていないが、バスタオルの中に手を入れようと試みる動作が確認される等、自己抜去のリスクは依然高いため、身体拘束ケアを継続。
12. 26	身体拘束に関する経過観察及び再検討(2 か月目) 会議内容：依然バスタオルの中に手を入れようと試みる動作が確認される等、自己抜去のリスクは高いため、身体拘束ケアを継続。
R05. 01. 24	身体拘束に関する経過観察及び再検討(3 か月目) 会議内容：バスタオルの中に手を入れようと試みる動作は殆ど確認されず、自己抜去のリスクは低下してきているため、身体拘束ケアを解除することを決定。
01. 25	「緊急やむを得ない身体拘束ケア」を解除。自己抜去する可能性は高いため、腹巻装着及び見守り機器作動を継続し様子観察していく。

《振り返りと課題》

4年度は、胃ろうチューブ自己抜去事故発生を受け、緊急会議を開催した。看護側からは再発防止・身体的苦痛防止のためにはミトンの使用もやむを得ないのではないかと提言があったが、介護側からは身体拘束に可能な限り該当しない方法にて対応したいと提言があり、さらに検討を行った。その結果、表のケアに加え、体動センサーやカメラを設置しモニターにて体動状況を常時確認、体動センサーコール時迅速に訪室対応していくことを統一ケアとして決定した。

ケア開始後は、介助等でクッションを外した際に胃ろう部位へすぐ触れようとされる仕草が見られ、体動センサーコールも頻繁に鳴りその都度すぐに訪室対応した。期間中の職員の心的負担は相当大きかった。次第に胃ろう部位への接触動作が減少したが、現在も自己抜去のリスクは継続している。

その他の身体拘束に該当する事例は確認されていない。

新規利用者については事前の提供情報や入居時カンファレンス開催等に基づき、センサーマット設置や特殊ベッド柵設置の必要性の有無等、様子観察しつつ個々のADLに応じた環境整備を行った。また、毎週全居室を巡回してベッドの配置やベッド柵の設置状況等の確認を行い、必要に応じて見守り機器等を活用し、身体拘束につながらないように努めている。また、利用者の日々の心身状態や身体機能、生活状況等の変化を経過観察しつつ、3か月に1回、施設ケア会議等で随時検討し対応を行った。

5年度も、委員会での状況検討、職員研修での研鑽、介護現場での状態変化に対する迅速な対応を行う等、身体拘束や行動制限を伴わないケアの実践にて、利用者の人権を尊重し幸福な生活に貢献できるよう努めていく。
(文責：雑賀)

(7) 褥瘡予防委員会

(目的) 半年に1回、総合的な観点から、予防、発生者の経過、対応の検討を行う。

開催日	褥瘡発生者	ハイリスク者
R04.06.15	1人	2人
12.21	0人	1人

《振り返りと課題》

4年度は1人の利用者に褥瘡が発生した。認知症の進行によって介助抵抗が見られ始め、それにより食事量が減り、徐々に身体機能も低下した。仙骨部に傷ができやすいため、早めに除圧やガーゼ保護等の褥瘡予防を実施したが、悪化を防ぐことができなかった。その後、入院し治癒することなく亡くなった。

その他、前半にアルブミン値が低下した利用者が多く、食事量減少だけでなく、腎機能・肝機能低下が関与しており、あらゆる機能をみていく必要があることを実感した。全身状態を総合的にみて、ADL低下やターミナルへの移行時期を見極め、早めに多職種で連携して新たな褥瘡が発生しないよう今後も努めていきたい。(文責：上谷)

(8) 感染予防対策委員会

(目的) 3か月毎に現在の施設内及び周辺地域での感染状況を確認し、予防、発生の対応策等を検討していく。感染対策に関する職員研修を行う。

《振り返りと課題》

4年度も新型コロナウイルスの感染予防に終始した。1年で、4人の職員に感染があったが、利用者に感染することなく終息した。職員の感染が確認された際は、速やかに全利用者、職員に対して抗原検査を実施、濃厚接触者の隔離対応やゾーニングの実施等、目まぐるしく環境整備を行った。リビングと居室で分散しての食事や居室での生活等、環境が変化する中で認知症がある利用者の周辺症状の対応等をしながら感染拡大を防止するために多職種で協力した。事前に作成したマニュアルもユニットによって対応方法等細かい部分で違いがあるため状況に応じて検討修正をした。これらを基に今後のマニュアル作成に活かしていきたい。

職員やその家族が濃厚接触者になる度に自宅待機となるため、職場は人手不足になる中、日々職員の感染対策の意識と利用者へに拡げまいという気持ちだけで頑張ってきた1年だった。インフルエンザについては、職員の家族が感染した例はあったが、職員には感染することなく流行期を終えることができた。

5年度も状況に応じて感染対策を十分に行い、コロナ禍以前の生活に近づけられるような支援をしていきたい。(文責：上谷)

(9) 医療安全管理委員会

(目的) 医療事故防止の徹底と安全に対する意識啓発、対策検討を行う。

3か月に1回医療事故の発生状況を確認し、再発予防策の検討、注意喚起を行う。

開催日	事故内容
R04.05	尿道カテーテル抜去(他の利用者が抜去)
10	胃ろうチューブ抜去(自己抜去)
12	配薬ミス(!!)
R05.02	配薬忘れ

※3年度 4件

【医療的処置】

内容	人数(3年度)
在宅酸素	7人(2人)
胃ろうチューブ留置	3人(3人)
鼻腔チューブ留置	0人(1人)
尿道カテーテル留置	1人(1人)

《振り返りと課題》

4年度も服薬に関する事故ゼロを目標にやってきましたが、医療事故が4件発生し、うち服薬ミスが2件あった。1件は経管栄養での服薬準備の際に利用者を取り違えてしまった。幸い服薬前に気づくことができたが、すでに溶かしてしまっていたため服薬ができなかった。もう1件は、ショートステイ利用時の物品チェックの際に荷物から薬を出し忘れており、また配薬されていないことに気がつくことができず、服薬ができていなかった。いずれもダブルチェックが徹底できていないことによるミスである。

その他、利用者が他の利用者の尿道カテーテルを抜去するということが初めて起こった。幸い利用者の身体に異常はなく再挿入したが、リビングのソファで一緒にくつろいでいるときに発生しており、採尿パックの配置やリビングでの過ごし方等あらゆることを想定して環境整備等を行う必要があると感じた。

胃ろうチューブ抜去に関しては、対応策を検討し何度も試したが、再発の危険性が高いため、身体拘束を実施して予防対応した。その後も拘束廃止に向けて毎月検討し、身体拘束しなくても胃ろう部を触られることはなくなり身体拘束解除となった。

毎年、医療事故ゼロを目標に定期的に注意喚起、周知徹底を図っているが、なかなか難しいのが現状である。あらゆることを想定して事故が起こらないように注意し、服薬ミスに関しては、うっかりミスのないよう多職種で連携を図っていきたい。(文責：上谷)

(10) 苦情検討委員会

(目的)利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：0件

〔４〕その他の会議

（１）第三者委員会

日 時：令和４年７月２０日（水）１０：３０～１１：１０ / 特養ひろた研修室

出席委員：３人

協議議題：令和３年度事業報告、各事業所事故報告、苦情受付、外国人技能実習生受け入れについて

意見等： センサーマット使用増加について、事故も減っているのでは効果はあったと思う。センサーマットが鳴るたびに訪室することで、職員に負担がかかるのと訪室することによる利用者へのストレスもあるので、その辺りに注意しながら使用してもらいたい。また、センサーが鳴ることに慣れてしまう恐れもある。どのような状況でセンサーが鳴るか等状況を把握することで、そこから見えてくることがあるのではないかと。機器を有効に活用して事故防止に努めてほしい。

内出血については昨年度より 13 件減少しており、ケアの質が上がっていると感じた。

繰り返し起こる事故は、手順表だけではなくチェック表でも確認していくことが必要ではないか等のアドバイスをいただいた。 (文責：山田)

（２）利用者相談会「いどばた会議」

新型コロナウイルス感染症予防のため中止

（３）家族の会

感染対策を行いながら総会のみ実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の増加にて中止となった。

3. 在宅部門

〔1〕指定居宅介護支援事業所ひろた

【令和4年度目標の評価】

【重点目標】できるだけ住み慣れた家、地域で暮らし続けられる支援

4年度の重点目標を基に、要介護者39人、要支援者36人の支援を行い、うち6人の方が亡くなった。そのうち2人は自宅での看取りを行った。その他の4人は病院での看取りではあったが、ぎりぎりまでサービスを利用して自宅での生活を送ることができた。家族や各事業所の細やかな支援のおかげで住み慣れた自宅での生活が送れたのではないかと思われる。

5年3月末で、10人が介護認定を受けているもののサービスの利用なく自宅で生活している。状況を見る限り何かしらのサービスを利用したほうが身体機能の維持、認知機能低下予防につながるのではと感じている。家族もそのように感じているが、他者と比べ自分はまだまだ元気である、弱っている姿を見せるのが恥ずかしい、他者を家の中に入れることへの不安感、自宅とサービス利用時の自由度の違い等による理由により利用につなげていない。また、寒い冬の期間支度が大変とのことで通所介護の利用を休んでしまう方も多し。今までもそれにより、転倒骨折や脳梗塞等を発症し、入院後そのまま施設入居となった方がいる。自宅で生活が続けられる当たり前のことが、高齢になってくるとある日突然できなくなってしまう。そうならないよう包括支援センター等と協力して予防の大切さを伝え、現在の状態が維持、改善できるような提案をしていきたい。

高齢者実態把握事業については、介護認定を受ける方が3年度より増え、サービスの利用を開始したため減少した。包括支援センターや地域の民生委員と情報を共有して、介護認定を受ける前に予防ができるような支援を行っていきたい。(文責：廣藤)

(1) 運営状況

【利用状況】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用人数	22 (29)	21 (30)	23 (30)	25 (28)	24 (28)	24 (27)	22 (26)	23 (24)	23 (23)	24 (22)	22 (22)	23 (20)	23.0 (25.7)

※ 3年度月平均利用人数 23.7人 (28.2人)

() 要支援者

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実態把握	0	1	1	0	2	0	2	0	0	2	0	2	10

※ 実態把握…独居高齢者で生活に不安がある方を対象に訪問し継続して訪問の必要な方

【介護度別利用実人数】 令和5年3月31日現在 平均要介護度：2.0 (3年度：2.0) ()は3年度比 単位：人

	要支援			要介護					合計
	事業対象	1	2	1	2	3	4	5	
男性	1	3	1	4	4	1	0	0	14(-2)
女性	1	7	7	3	7	2	0	2	29(-7)

(2) 苦情受付

受付件数：0件

(3) 地域連絡会

(参加者) 砥部町保健師、砥部町国保診療所(医師、看護師)、砥部町地域包括支援センター職員、砥部社協訪問介護職員、特養ひろた生活相談員、やまの里たまたに介護支援専門員、砥部町デイサービスセンター生活相談員、居宅介護支援専門員

(開催場所) ひろた交流センター研修室

(開催日時) 毎月 第4火曜日 13:30～

(協議事項) サービス担当者会議、ケース検討、各機関連絡事項、その他

〔2〕やまの里たまたに

【令和4年度目標の評価】

【重点目標】 地域住民との関わりを大切にしたい、安心できる在宅生活の支援

4年度は最大登録20人を目標としていたが、入院や施設入居での利用終了が続き、また職員の病欠等で安定した人員の確保が難しく13人に留まった。

小規模多機能の最大の目的である在宅生活を継続するために、個別リハビリや生活リハビリの充実に努めた。食事の準備や片付け、洗濯や掃除等の家事動作訓練を自宅と事業所で継続的に実施し、利用者の残存機能を上手く活用した生活リハビリを実施することができた。一方で個別リハビリは十分に実施することができず、実施内容の検討が課題として残った。

3年度から導入した記録システムを活用し、記録を充実させることで、状態変化の早期発見に努め職員間や法人内での情報共有を図った。中でも訪問サービスは複数の職員が交代で行い、かつ単独での対応になるため、過去の訪問記録が重要な情報となる。特に認知症のある利用者については訪問の度に自宅の状況が変わっていることもあり、過去の訪問時の記録が参考になることが多い。訪問先でもタブレットで記録を確認しながら対応できたことで、支援の方法や内容を統一できたと感じる。また、記録内容を家族にも提供することで、自宅で過ごす時間を不安に思われる家族にも安心していただけるよう努めた。訪問サービスを軸にしつつ、退院直後や急な体調の悪化が見られた場合は、状況が改善するまで泊りサービスを追加して利用者及び家族の不安が軽減できるようサポートした。1月には新型コロナウイルスの集団感染が発生してしまったが、陽性となった利用者は速やかに泊りサービスに移行し事業所で療養を行った。通いサービスと泊りサービスは陽性者のみに限定し、集中的にケアを行い、最終的に利用者6人、職員1人の計7人が罹患したが、感染した利用者も重症化することなく回復し2週間で終息した。この期間レッドゾーン対応の職員を限定し、日中・夜間各1人での対応となったが、グリーンゾーンや法人事務所との情報共有においても記録システムの有効性を感じた。

やまの里たまたにの利用者の多くは自宅が標高500メートル以上に位置しており、台風や積雪の影響によりサービスの提供が一時的に困難な状況に陥ったケースもあった。特に年末の大雪では利用者の自宅に行くことができず、さらに停電で安否確認すらできない状況となったが、地域住民の支援のお蔭で利用が再開できるまで何とか無事に自宅で過ごすことができた。予測できる自然現象の場合は早めの対応を行うことの重要性を再認識するとともに、地域とのつながりや連携が非常に

重要であることを痛感した。

地域とのつながりの強化やより良いサービスを提供するために開催する運営推進会議や3年度に好評だったためにカフェの定期開催を目標としていたが、新型コロナウイルスの影響により思うように開催できなかった。運営推進会議は書面開催が多く集合開催は2回にとどまったものの、新しく民生委員になった方に参加していただき、さらに避難訓練にも協力いただく等一人でも多くの方に小規模多機能の事業内容を知っていただく機会となるよう努めた。

利用者が安心して在宅生活をしていくためには地域の協力が不可欠で、事業所の力だけでは困難なことも多い。事業所の機能強化を図るとともに地域とのつながりや協力をより一層図れるように努めていきたい。

利用者の体調不良時、ドクターメイトの活用で迅速に対応することができた。また、利用者の体調不良の問い合わせ以外にも、新型コロナウイルス感染予防策の相談等に活用することができた。看護職が常駐しておらず、主治医も利用者によって違うため、受診等の依頼をする前に相談ができる体制があることで介護職の不安が軽減できている。(文責：門田)

(1) 運営状況

定員 18 人 (1 日最大利用人数 通い 9 人 泊り 6 人)

【登録人数推移】 平均年齢 88.9 歳 平均介護度 2.8 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護者	9	9	9	7	7	8	9	9	10	11	11	10
要支援者	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3
合計利用人数	12	12	12	9	10	11	12	12	13	14	14	13

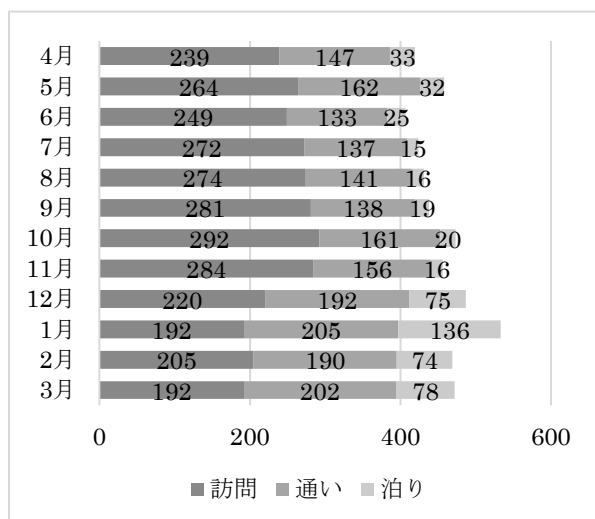
【介護度別利用実人数】 令和5年3月31日現在 単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用実人数	2	1	2	1	5	1	1	13

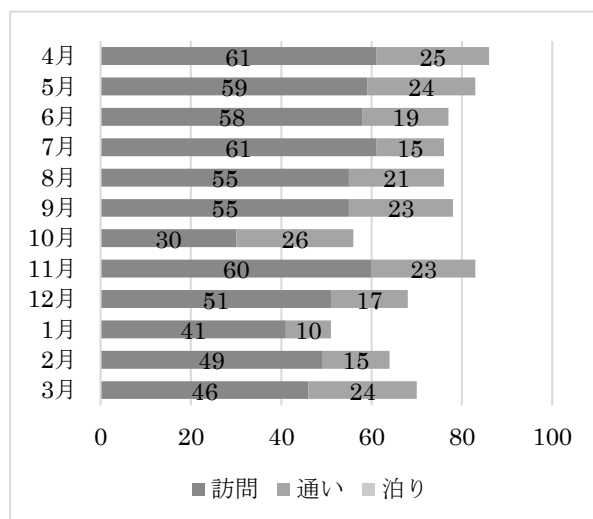
※平均介護度は要支援を除く

【利用延人数】

【要介護】



【要支援】



(2) 事業内容

(目的) 年間行事計画に基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

外出 食事・おやつ作り・地域行事等

《振り返りと課題》

コロナ禍であったが感染予防を徹底した上で様々な場所へ外出した。やまの里たまたにが開設して初めての外出行事は、利用者に希望を聞いて久万高原町に出かけた。高齢になると外出の機会が減り、コロナ禍で控えている方も多いことから、とても喜んでいただけた。また、地域行事にも可能な限り参加した。自宅と事業所の往復が主な生活パターンになっている利用者が多い中で、地域の方々との交流の機会は、利用者の生活背景や地域とのつながり等、私たちが知らなかった一面を発見することもあり、地域とのつながりが利用者の生活に大きく影響していることを知る貴重な機会でもあった。

制限が続く中でも、「食」を通して利用者に楽しんでいただけるよう食事作りやおやつ作りを実施した。残存機能を存分に発揮していただけるよう調理工程を聞きながら一緒に行うことで、利用者の普段とは違う生き生きとした表情を見ることができた。

また、感染状況に少しずつ落ち着きが見られ始めた頃に開催できた「家族介護教室」には、在宅生活を支えてくれている家族や地域住民の参加があり、認知症の症状について知っていただけるようアプローチすることができた。「たまたにカフェ」については、感染状況が落ち着いたタイミングでの開催を試みたが、実施することはできなかった。5年度も感染状況を確認しながらにはなるが、地域に開かれた事業所として地域イベント等を開催したい。(文責：門田)

《行事写真》

○外出



【外出 (長曽池)】



【菖蒲鑑賞 (小田地区)】



【外出 (面河溪谷)】

○食事・おやつ作り



【お茶揉み】



【うどん作り】



【カレー作り】



【回転寿司】

○地域交流



【健康教室 (砥部デイ)】



【七夕の集い (交流センター)】



【運動会 (広田小学校)】



【芸能発表会 (交流センター)】

(3) 事故報告

①件数

ヒヤリハット・・・2件

《危険度1》 …… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 2件

事故報告書・・・6件

《危険度2》 …… 処置は行わなかったが、バイタルサイン・観察は継続的に必要 5件

《危険度3》 …… 簡単な処置や治療を要した（消毒・ガーゼ保護、湿布） 1件

②内容

ヒヤリハット報告書内容別発生件数	
立位時のふらつき	1
乗車時、スロープから車椅子が落ちかける	1

事故報告書内容別発生件数	
床に座っている	5
内出血	1

③原因

内容	件数	内容	件数
職員の確認不足・ケアミス	4	介助中の圧迫	1
環境整備不良	3		

④分析

転倒事故の半数以上が夜間の居室で発生している。目の届きにくい時間帯や場所であること、過度な見守りが負担になってはいけないこと、残存機能を上手く活かすこと等、いろいろな面から防止策を検討した。そして、滑り止めマットの設置やベッド柵の変更等の居室環境整備に加え、記録システムを活用した情報共有・対応策の経過観察をすることで事故の再発防止に努めた。

また、普段あまり身体を動かすことが少ない利用者が、臥床時に体動が多かったことから内出血が発生したケースがあった。日々の状態に合わせた環境整備やケア内容を協議し、介助方法の統一を行うことで再発防止に努めた。

準備や確認不足が原因でヒヤリハットや事故に至ったケースが4件発生した。会議にて分析を行い、再発防止策として事前準備の役割分担を明確にし、利用者の状態観察のポイントを伝え記録に残すよう努めた。さらにダブルチェックができる体制を整備し、日々のケアに落とし込んでいった結果、事故の再発を防ぐことができた。

今後は利用者の状態変化によって生じる動きを想定し情報共有を図りたい。また、過度な見守りや安全策によって利用者の生活レベルが低下しないよう配慮しつつ、在宅生活が一日でも長く継続できるような支援に努めたい。
(文責：門田)

(4) 運営推進会議

(参加者) 施設長、部長、居宅管理者、やまの里たまたに職員、地域住民、他法人の管理者、砥部町職員、砥部町地域包括支援センター職員

(開催日) 2 か月に 1 回

(主な協議事項) 運営状況報告 活動状況報告 事故報告 意見交換 サービス評価

開催日	協議事項	出席者
R04. 04.	書面開催 (運営状況報告 事故報告)	—
07. 05	広田駐在所から防犯啓発	12 人
09.	書面開催 (運営状況報告 事故報告 職員の新型コロナウイルス感染症報告)	—
11.	書面開催 (運営状況報告 事故報告)	—
R05. 02.	書面開催 (運営状況報告 事故報告)	—
03. 29	1 月の新型コロナウイルス感染症報告 避難訓練実施 サービス評価	11 人

《振り返りと課題》

コロナ禍ということもあり、書面開催が多くなった。3 年度の運営推進会議の意見を取り入れ、運営推進会議メンバーは、玉谷地区の民生委員だけでなく各地区の民生委員にも順番に出席していただけるように日程調整を行った。また出席予定の方に避難訓練の参加、見学をお願いして参加していただいた。

新型コロナウイルス感染症に関して、利用者や職員の感染があり、感染症で体調を崩された利用者も変わりなく回復されたことを報告した。運営推進会議で、感染症対策の難しさや、それに伴う行動規制についても議題に上がった。今後も施設として統一した感染対策を行い、家族や地域住民、民生委員の協力をいただきながら、地域行事への参加や高齢者が地域で生活できる取り組みを行っていききたい。

地域の方々にやまの里たまたまのサービスについて理解を深める取り組みを、5 年度は積極的に行っていきたい。
(文責：二宮)

(5) 苦情受付

受付件数：0 件

(6) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、居宅管理者、管理栄養士、やまの里たまたまに職員

(主な協議事項) 各部署より連絡・報告 ケース検討 実績報告 事故検討 身体拘束の取り組み 感染予防対策

開催日	協議事項
R04. 04. 28	家族から問い合わせがあった場合の対応方法
05. 25	家族からの要望について検討
06. 28	レクリエーション内容の見直し 脱水・熱中症予防について検討
07. 29	食中毒の注意喚起 記録システムの活用方法
08. 24	地域活動参加時の対応 感染予防対策

09.29	新規登録者の情報提供 外出行事の検討 避難訓練実施の報告 送迎車使用時の注意
10.31	家族からの要望について検討 内部監査結果の報告 事業者サービス評価実施
11.25	勤務調整について説明 個人情報保護の方法について検討
12.	新型コロナウイルス感染予防のため中止
R05.01.31	新型コロナウイルス感染予防対策の検討 積雪時の対応について検討 事業者サービス評価実施
02.28	外食行事の検討
03.24	厨房業者変更の説明 監査結果の報告 新規入職者の説明

(7) 業務改善委員会

(参加者) やまの里たまたに職員

(主な協議事項) サービス内容、環境整備、記録システムの検討

開催日	協議項目
R04.04.14	訪問支援内容の見直し
05.11	避難確保計画の研修を実施
06.	新型コロナウイルス感染予防のため中止
07.08	洗濯料金の見直し 地域行事实施の検討
08.	新型コロナウイルス感染予防のため中止
09.06	避難訓練と非常時参集訓練の説明 利用定員変更の説明
10.07	外出行事实施方法について ケアプラン更新時の注意点 日誌作成時の注意点
11.10	環境整備について 職員間の連絡方法について検討
12.	新型コロナウイルス感染予防のため中止
R05.01.	新型コロナウイルス感染予防のため中止
02.08	サービス評価(外部評価・総括評価)の報告
03.06	入院者の状況報告 おやつ料金の見直し

《振り返りと課題》

サービスの適正な提供と業務の効率化を図ることを目的として開催している。

利用者の心身状況や生活状況は常に変化しているため、それに対応した柔軟なサービス提供ができるように支援内容の協議と見直しを行うことで内容の統一化を図り、質の高いサービス提供と在宅生活の継続に努めた。
(文責:門田)

〔3〕 砥部町デイサービスセンター (砥部町受託事業)

【令和4年度目標の評価】

【重点目標】 楽しみながら身体機能の維持・改善を図るサービス提供

4年度の通所介護の利用延人数は、3年度と比較すると423人減少し、総合事業の利用延人数は、45人増加した。全体の稼働率は6ポイント低下となった。中でも、12月は事業所での新型コロナウイルス感染と大雪の影響で稼働が著しく低下した。

新型コロナウイルス感染は、利用中に発熱の症状が出た利用者について簡易抗原検査を実施した

ところ、陽性が判明したため、他の利用者についても検査を行い、職員 1 人、利用者 4 人の感染が判明した。委託者である砥部町とも協議し、4 日間は通所事業を休止したが、その間訪問や電話での体調確認と、清拭や衣類交換等の個別ケアの代替えサービスを行い、希望者には昼食の配達も行った。新型コロナウイルス感染者については、毎日自宅訪問しバイタル測定等状態確認や状況に応じて必要な支援を行った。独居高齢者が感染すると家族も十分な支援ができないことから、今後事業所としてどのように支援を行ったらいいか課題が残った。

新型コロナウイルス感染が終息して間もなく、近年例のない暴風雪に見舞われた。安全に送迎が行える事業所近隣の利用者から徐々に利用していただいたが、各集落の除雪が完了するまではかなり時間がかかり、そのため 1 週間程度サービスが利用できない方もいた。また、私道については行政も対応できないことから、除雪が難しい家庭に広寿会から職員が出向き除雪の手伝いをした。また、倒木等で停電も発生し、連絡がつかない利用者もおり心配したが皆体調等変わりなく利用再開することができた。

少しでも利用者の獲得につながればとの思いで、定期的に広報紙を作成し、居宅介護支援事業所を訪問した。4 年度の新規利用者は 16 人と 3 年度よりやや上回ったが、その中で定期利用につながった利用者は 10 人であった。数回利用したのみで利用が滞ってしまった方は、利用再開につなげようと体調確認のため自宅訪問を行う等の工夫を試みたが、利用再開には至らなかった。理由を聞くと、自身はまだ弱っていないとの自己判断や手持ちぶさた等の回答があり、ある程度元気な方に対してのリハビリメニュー等の個別支援を検討しないといけないと感じた。

記録システムを活用し、個々のバイタル経過を観察し、異変があれば、家族・介護支援専門員に状態報告を行い、受診を促がす等の対応をした。その際に経過のデータを渡して情報提供を行い、病状の悪化予防や異常時の早期対応に努めた。

4 年度は、個別のリハビリメニューを全員が把握できていないという反省点から、表を作成し確実に実施できるよう取り組んだ。リハビリを実施し、関節可動域が広がる等改善があったり、身体状態の変化が見られたりした際はこまめに記録を残した。それを基に機能訓練指導員に報告を行い、メニューの変更の相談をした。身体機能に改善のあった利用者には、以前の状態と現在を比較して伝えることで、さらに意欲的にリハビリ取り組み、やる気につながった。また、熱心にされている他の利用者を見て「自分もやってみよう」と興味を持ち、意欲的にリハビリに取り組む利用者もいた。

広田地域では『介護保険サービスは弱った人が利用するもの』という認識の方が多い。予防の大切さを伝え、サービスを利用することで、身体・認知機能低下予防ができ、在宅生活が継続できることを繰り返し伝え、地域の高齢者を支援していきたい。
(文責：宇都宮)

(1) 運営状況

定員 20 人 稼働率・・・55.9% (介護+総合事業)

【通所介護】	平均年齢 85.8 歳		平均要介護度 1.5											単位：人
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
利用実人数	16	15	17	16	18	16	14	17	17	16	15	16	16.0/月	
利用延人数	170	156	176	178	174	160	143	164	113	125	114	177	1,850	

※ 3 年度延利用人数 2,273 人 平均年齢 86.5 歳 平均要介護度 1.5

【総合事業】 平均年齢 87.7歳 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	18	19	18	18	19	19	18	16	15	14	15	14	16.9/月
利用延人数	94	105	98	96	97	99	92	91	54	61	79	84	1,050

※ 3年度延利用人数 1,005人 平均年齢 86歳

【介護度別利用実人数】 令和5年3月31日現在 単位：人

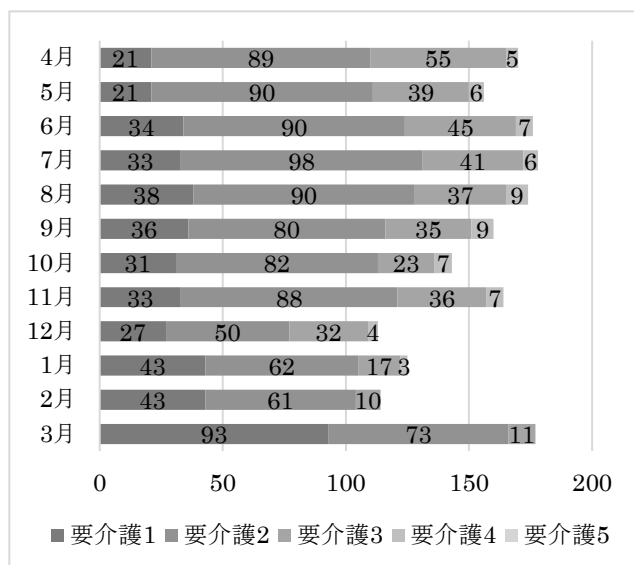
	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
利用実人数	2	6	6	7	7	2	0	0	30

【保険者別利用延人数】 単位：人

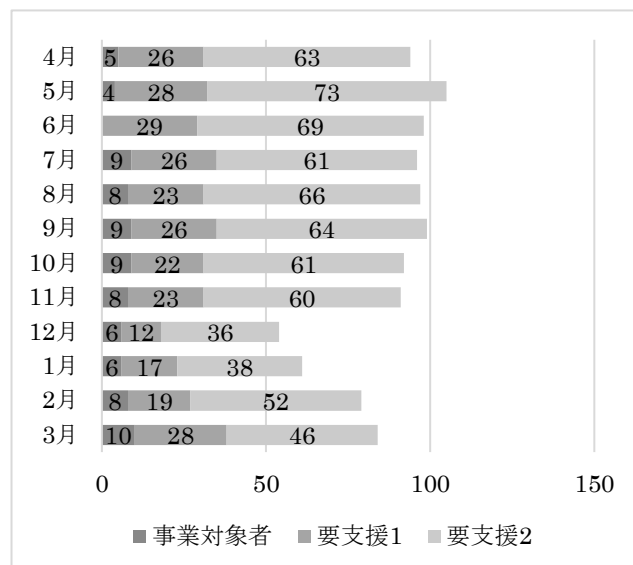
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均人数
砥部町	200	198	222	208	225	211	199	202	128	141	141	185	2,260	188.3
内子町	64	63	52	66	46	48	36	53	39	45	52	76	640	53.3
合計	264	261	274	274	271	259	235	255	167	186	193	261	2,900	241.6
稼働率 (%)	62.8	59.3	62.2	65.2	58.9	58.8	55.9	57.9	37.9	46.5	48.2	56.7	55.9	

※ 年間営業日数 259日

【要介護】



【要支援】



(2) 事業内容

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

定期開催

食事作り・おやつ作り 4回程度/月

誕生会 毎月

季節行事

お花見、避難訓練、紫陽花観賞、手打ちうどん作り、敬老会、三事業所交流運動会、紅葉観賞

こんにやく作り、クリスマス会、忘年会、もちつき、節分、たらいそうめん、かきもち作り
《振り返りと課題》

活動に制限がある中でも、利用者に希望を聞きながらイベントを計画し、可能な限り実施した。小田地区にある「相野の花」を見に行った際は「綺麗な花が見れて良かった」「また連れて行ってな」等、利用者からの声も多くあった。イベントで感じた「楽しかった」という思いは、次のイベントへの期待となり楽しみに待つことで、次の利用にもつながった。

交流運動会等の行事では、看板作りや準備を利用者に手伝ってもらうことで、「頑張っ
て仕上げないかな」「間に合わんかもしれんから持って帰って作ってこようか」と使命感の強い方もおられ、完成した際にはとても満足されていた。生き生きとした表情を見て、役割を持つことの大切さを感じた。広寿会内の三事業所交流運動会では、利用者同士が久しぶりの再会で会話が弾み、笑顔も多く見られた。競技では日頃の運動の成果を発揮し、楽しみながら身体を動かされていた。

こんにやく作り、手打ちうどん作り等の調理レクリエーションも利用者の楽しみの一つとなっている。5年度は利用者からの提案で、中庭で野菜を育て収穫した野菜を使った調理をする予定となっている。利用者の意見を取り入れながら利用者主体の活動の提供に努めていきたい。また、他事業所との交流や季節感のあるイベントを計画し、心身ともに元気になってもらえるよう支えていきたい。
(文責：白石)

《行事写真》



【くままちひなまつり (久万高原町)】



【相野の桜 (小田地区)】



【回転寿司】



【お月見団子作り】



【三事業所交流運動会】



【お月見の置き飾り作り】

(3) 事故報告

①件数

ヒヤリハット・・・12件

《危険度0》	…	事故を未然に防ぐことができた	3件
《危険度1》	…	事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった	9件

事故報告書・・・3件

《危険度2》	… 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン観察は継続的に必要	2件
《危険度4》	… 濃厚な治療を要した(骨折・縫合・入院等)	1件

②内容

ヒヤリハット報告書内容別発生件数	
床に座られている	6
補聴器所在不明	2
移動時、身体がふらつく	1
車椅子を押して歩かれている	1
マッサージ機が傾く	1
乗車時に膝折れ	1

事故報告書内容別発生件数	
転倒	2
所在不明	1

③原因

内容	件数	内容	件数
利用者の体調不良	5	確認不足	2
行動予測不十分	4	見守り不十分	1
環境・設備	3		

④件数の推移

30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
33件	22件	16件	19件	15件

⑤分析

事故等の総件数は、3年度と比較して4件減少した。事故報告3件のうち2件が転倒事故で、その中で1件は介護保険事故として報告を行った。内容は、トイレから出る際の方向転換時に転倒し、後頭部打撲・裂傷が見られたため受診、3針縫合の処置を受けたものである。消毒・抜糸のため1週間定期受診の指示があり、その間デイサービスを休まれたため、電話での体調確認や自宅訪問する等の経過観察を行った。

この事故に限らず、事故直後や時間経過後も異変がないか継続して身体状態の観察を行い、その都度、家族・担当の介護支援専門員への経過報告を行う等誠意を持って対応するよう努めた。また、事故後はできるだけ早くカンファレンスを行い、職員がどこまで踏み込んで支援をするかを徹底的に話し合い、周知徹底するよう努めた。

今後も常日頃から行動予測を行いプロとして緊張感を持ってケアにあたること、さらに些細なケースも見逃さずヒヤリハット報告書を作成し、スタッフ間で情報の共有・交換・周知を図り事故発生防止に努めたい。
(文責：宇都宮)

(4) 苦情受付

苦情受付件数：0件

(5) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、管理栄養士、砥部町デイサービス職員、居宅介護支援専門員

(主な協議事項) ケース・業務検討、各部署・委員会より連絡、新型コロナウイルス感染予防

開催日	協議事項
R04. 04. 28	感染対策徹底の再周知
05. 19	体験・新規利用者の基本情報交換
06. 27	地域住民グループ支援事業開催方法検討
07. 25	申し送り事項 体調不良のある利用者ケース検討 新規利用者の基本情報
08. 29	書面開催 (入浴時の対応方法 備品購入について)
09. 21	新規利用者状態把握・リハビリ内容周知
10. 31	入浴時の感染防止対策再確認
11. 28	利用者の現状報告
12. 27	新型コロナウイルス感染・大雪での事業所休止の振り返り
R05. 01. 26	F T記録入力方法
02. 27	給食委託業者変更
03. 27	申し送り事項

〔4〕砥部町地域支援事業 (砥部町受託事業)

(1) 家族介護支援事業 (やまの里たまたに実施)

(目的) 家族と地域住民が一緒になって認知症を学び、ともに考えることを目的として実施する。

《評価》

在宅介護をする家族、近隣住民、民生委員、さらには行政の保健師等が参加し、認知症の勉強をした。講師の分かりやすい事例を取り入れた説明で、より理解も深まったと感じた。

特に周辺症状の急激な悪化は、認知症の悪化とイコールではなく、外的要因にも起因することを知って驚かれる方が多かった。

また、今回の教室を通じて久しぶりに会われた方同志で談笑する光景が見られ、コロナ禍でのリフレッシュの場としても大きな成果があった。

(文責：二宮)



【家族介護教室】

令和5年3月27日(月)

参加者：22人

(2) 地域住民グループ支援事業 (砥部町デイサービスセンター実施)

(目的) 地域や世代間の交流を図ることにより、高齢者の生活意欲の向上を目指す。

《評価》

講師の依頼等、数か月前から準備をするため、開催時期の新型コロナウイルス感染状況等の予測と開催の判断が難しかった。また、1月開催の教室であったため、天気予報を確認しながら広報活

動を行った。

この2回のいきいき健康教室の開催で、体操やゲームを取り入れ、しっかりと全身を動かすことができた。また、終始笑い声が絶えず、参加者が楽しく交流する機会となった。コロナ禍で地域行事等他者との交流が激減したため、「地域を元気にしたい！」との思いで企画している。今後も地域の方々が楽しく交流できる機会を作っていきたい。

(文責：宇都宮)



【いきいき健康教室～百歳体操～】

令和4年7月13日(水)

参加者：12人



【いきいき健康教室～笑いヨガ～】

令和5年1月23日(月)

参加者：23人

(3) いきいき見守り配食サービス

(目的)65歳以上の独居高齢者等で調理が困難な希望者に、バランスのとれた食事を提供するとともに定期的な安否確認を行う。

○利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均
利用者数	5	4	5	5	5	5	5	5	4	3	3	3	52/4.3
延利用回数	48	38	47	56	57	56	54	56	32	33	26	24	527/43.9

《評価》

本人や家族の希望を基に、町担当者とのカンファレンスを経て提供を行っている。

4年度は2人の方が、配食サービスや介護サービスを受けながらぎりぎりまで自宅での生活を送られた。最後は体調を崩し入院後亡くなることとなった。

高齢に伴い、手の握力や下肢筋力の低下により硬い物を切ったり、調理の間立っておくことが難しくなったりする方が徐々に増えてきている。また、移動スーパーで買い物はできても、好みの物を買うためメニューが偏り、栄養のバランスが十分でないこともあるので、定期的に状況を確認し、食事に関しての提案を続け自宅での生活が続けられるよう支援していきたい。

(文責：廣藤)

〔5〕 支援ハウス (砥部町受託事業)

(1) 運営状況

定員 10 人 (月末時点での人数)

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居人数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8

※ 入居人数は月末入居人数

(2) 行事報告

砥部町デイサービスセンターや特養ひろたの催し物に随時参加

4. 会 議 等

〔1〕 運営委員会

事業運営、各事業所の課題検討、実績報告等話し合いを行う。

(参加者) 施設長、部長、所長、主任、副主任

(開催日) 第1水曜日 14:00～

(主な協議事項) 各部署からの報告・連絡 アクションプランの実施状況の報告・評価

開催日	協議事項等
R04.04.01	新型コロナウイルス（感染状況） 消耗品の在庫管理 給与規程変更 事業計画 人事等
05.06	新型コロナウイルス感染対策（緩和検討） 短時間勤務者勤務確認 備品管理 事業報告等
06.01	新型コロナウイルス感染対策（緩和検討） 小規模多機能内部監査検討 BCP 計画 業務改善 監事監査等
07.06	新型コロナウイルス（ワクチン接種予定） 広寿会内の情報共有方法 車両事故 BCP 計画策定委員会設立等
08.03	人事 物品破損届 正職試験 外国人技能実習生等
09.07	新型コロナウイルス（感染状況） 避難訓練実施予定 BCP 計画 外国人技能実習生 給食委託業者見直し等
10.05	企画書作成方法 回覧文書等の管理方法 就業時間表記の統一 人事 給食委託業者プロポーザル実施予定等
11.05	事業所間交流 外出時のガソリン代 広寿会内の情報共有方法 厨房委託業者プロポーザル実施予定等
12.07	新型コロナウイルス（感染状況・ワクチン及び抗原検査実施予定） LINE WORKS 導入 ドクターメイト導入等
R05.01.04	大雪災害対策 事業計画 5年度予算 給食委託会社決定 成長対話時期変更 たちばなの家跡地の土地売却決定 人事等
02.01	新型コロナウイルス（感染状況）施設車両購入検討 BCP 計画 広寿会 HP 家族面会再開等
03.04	新型コロナウイルス感染対策（緩和検討） 人事 散髪カフェ 家族の面会方法変更等

〔2〕 職員会

全体運営に関する職員間の情報共有を行う。

(参加者) 全職員

(開催日) 3か月に1回 第1週目 17:30～

(主な協議事項) 行事予定の連絡 各部署からの連絡事項

開催日	参加人数	協議事項等
R04.04.06	24	職員入職 人事異動 新型コロナウイルス感染対策緩和 事業報告書の書き方 理事会報告、処遇改善支援補助金 事業計画（運営方針） 労働者の代表選出
07.04	24	監事監査報告書 新型コロナウイルス感染対策の中での楽しみのある行事の提供 過疎地域でのニーズ・サービスの在り方 利用者からのハラスメント対策 人事異動 新型コロナウイルス感染対策緩和
10.05	23	職員入職 感染流行時期の感染対策の周知徹底 看取りケアの報告
R05.01.04	19	新型コロナ発生の報告 厨房委託業者変更 安全運転注意喚起

〔3〕広報委員会

広報紙「広寿」の編集発行を中心に、法人及び事業所の情報発信に努めていく。

(参加者) 各部署で選定された職員

《振り返りと課題》

4年度は、第45号(令和4年8月)、第46号(令和5年1月)を発行し、施設利用者や家族、地域住民、そして近隣施設等関係機関へ配付した。



【広寿第45号】

【広寿第46号】

ブログに関してはどの事業所もほぼ更新できていない。離れて暮らしている利用者の家族等へ事業所の取り組みや近況報告がいち早くお知らせできるものであるため、随時更新できるような体制を構築していきたい。

砥部町デイサービスセンター、やまの里たまたみには広報紙等を独自に作成して利用者や居宅介護支援事業所へ配付し、活動の報告等を行った。

4年度中にホームページの変更を検討していたが実施できなかった。5年度中には新たに作成をして、利用者家族や各関係機関等に広寿会の取り組み等お知らせできるような体制づくりをしていきたいと考えている。

(文責：廣藤)

ホームページやブログを活用した情報発信

日常の様子をタイムリーに伝える手段として有効活用を努め、情報発信をしていく。

- 広寿会ホームページ

<http://www.koujukai-hirota.com/>

- ブログ 「ほのぼの♪ひろた日記」

「やまの里たまたみに」



ブログ「ほのぼの♪ひろた日記」

〔4〕防災委員会

事業継続計画 (BCP 計画) の策定を推進し、災害への備えを強化する。

(参加者) 防火管理者、各事業所関係職員 (副主任級以上)

① 防災訓練等の実施状況

年月日	訓練内容
R04. 09. 29	防災訓練① (やまの里たまたに) ・ 通報訓練 避難訓練 初期消火訓練を実施
10. 19	防災訓練② (特養ひろた/砥部町高齢者生活福祉センター) ・ 通報訓練 避難訓練 初期消火訓練を実施 特養では、レスキューシート使用訓練をあわせて実施
R05. 03. 09	防災訓練③ (特養ひろた/砥部町高齢者生活福祉センター) ・ 通報訓練 避難訓練 初期消火訓練を実施 夜間の火災発生を想定し、夜勤や宿直に従事する職員を中心に訓練を実施
03. 29	防災訓練④ (やまの里たまたに) ・ 通報訓練 避難訓練 初期消火訓練を実施 地域住民、民生委員等にも声掛けて実施

《振り返りと課題》

火災を想定した防災訓練を年2回実施した。新型コロナウイルス感染予防のため大声を出さない等、一部制限をした訓練であったが、やまの里たまたにでは、利用者家族や近隣住民の訓練参加もあり、初動対応を再確認する効果的な訓練ができた。職員配置が少ない夜間帯等、様々な条件下で訓練同様に迅速な行動ができるよう継続して職員個々の対応力を高めていきたい。

そして、委員会では、6年度に介護事業所における事業継続計画（BCP 計画）の策定が義務付けられることから、その策定作業に着手した。そのような中、12月下旬には記録的な大雪に見舞われ、地域の各所で倒木等により、道路の寸断や停電が発生した。独居で在宅生活する利用者が数人住む中野川地区は数日間の停電が続く中、孤立し、消防の救助が入る非常事態であった。

また、先述の事業継続計画には自然災害だけでなく、日常生活を一変させた新型コロナウイルス等の感染症も想定しなければならないこととされている。広寿会では、3年度以前まで新型コロナウイルスの事業所内感染が確認されることはなかったが、12月と1月にそれぞれ居宅サービス事業所で数人の感染が確認され、職員が不足する混乱した現場でサービスを継続することの大変さを思い知らされた。



【デイサービス利用宅前の除雪をする職員】



【40cmを超える積雪で動けなくなった車両】

現時点でも、自然災害に関しては、事業継続計画を含む防災計画を策定しているが、12月の大雪、そして事業所内感染の混乱を体験し、現行計画の不十分さや実際に機能し得る計画の必要性を痛感した。非常時における職員確保の問題、電気や水の問題、備蓄の量や保管場所の問題、情報収集や共有の問題等々、事業継続計画を策定する上で解決しなければならない課題は多いが、職員皆で真剣に取り組みたい。（文責：福岡）

〔5〕給食委員会

「食＝命」をテーマに、より良い食の提供を施設職員、厨房委託業者職員とともに取り組む。

（参加者）委託業者、施設長、部長、施設部主任、砥部町デイサービスセンター生活相談員
やまの里たまたに所長、管理栄養士

（開催）毎月1回

（主な協議事項）利用者の食事摂取状況や料理の味付け、献立内容、食事形態、異物混入予防、感染対策等

《振り返りと課題》

4年度は新型コロナウイルス対策でイレギュラーな対応が多かった。デイサービス休止期間中は訪問対応に切り替えたことから、希望者には弁当容器で昼食を提供した。やまの里たまたにでは陽性者が事業所で療養したことから、療養期間が終了するまで食事をすべて弁当にして配達を行った。施設においては感染者こそ出なかったものの、濃厚接触で居室対応となる利用者がいたことから、使い捨て容器の使用や居住部門への立入りの制限等委託業者には多くの負担をかけたが、これらの対応によって、感染者を最小限にすることができたと感じる。対応方法はまとめて今後の感染対策に活かしていきたい。

4年度は給食委託業者の見直しを行い、プロポーザルの結果、18年ぶりに5年度より委託業者が

変更することになった。広寿会のケアの柱でもある『食＝命』を継続していくために、新しい委託先とも提供方法に加え、味や形態等についても検討を重ねた。平成 16 年から広寿会の食を支えてくれたシダックスフートサービスに感謝するとともに、新しい委託業者ともひろたの食事をともに作り上げていけるよう、給食委員会で話し合いを重ね信頼関係を築いていきたい。

(文責：松本)

行事食

【施設・在宅部門】

月	日	行事	献立内容
04	05	お花見弁当	巻き寿司・鶏の唐揚げ・エビフライ・だし巻き玉子・辛子和・つくしの卵とじ・いちご・桜餅
05	27	祝い膳～高知の郷土料理～	こけら寿司・ペラやき・あおさのかき揚げ・いも天・キャベツの土佐和え・どろめ汁
06	07	手打ちうどん	うどん・おにぎり・さつま芋の天ぷら・ブロッコリーの和え物・りんご
07	29	祝い膳～鹿児島島の郷土料理～	鶏飯・がね・さつま揚げ・油ぞうめん・にがごりの佃煮・けせん団子
09	12	居酒屋	やきそば・おにぎり・鶏の唐揚げ・たこやき・フランクフルト・玉子やき・キャベツの昆布和え・手作りプリン
10	17	さんまの炭火やき	さんまの炭火やき・おにぎり・鶏の唐揚げ・芋の天ぷら・梅肉和え・だし巻き玉子・オレンジ
12	28	もちバイキング	お雑煮・きな粉もち・あんこもち・だし巻き玉子・もやしの酢の物・ごまプリン
01	01	お節料理	巻き寿司・お刺身・三点盛り・なます・煮しめ・岩石玉子・すまし汁・栗きんとん
02	14	デザートバイキング	おにぎり・鶏の唐揚げ・春雨の酢の物・アーモンドチュイール・フルーツケーキ・ロールケーキ・レアチーズケーキ・プリン・バナナマフィン・スノーボール・オレオブラウニー・クッキー・生クリーム大福・ババロア・お麩ラスク・チョコブッセ・ポテトチップス
03	15 16	回転寿司(施設) 回転寿司 (砥部デイ・たまたに)	マグロ・サーモン・穴子・エビ・いなり寿司・イクラ・玉子・ネギトロ・赤だし・抹茶プリン

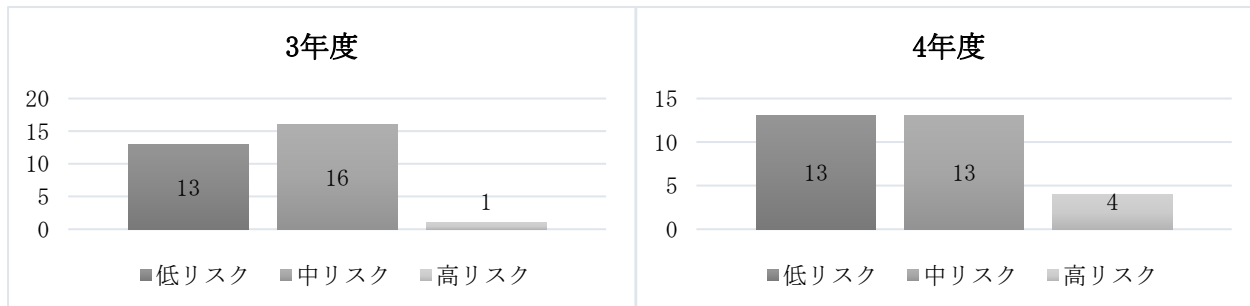
《振り返りと課題》

3 年度に引き続き、4 年度も日本全国の郷土料理を取り入れた祝い膳の提供を行った。その土地の料理調べから始まり、利用者に食べやすく楽しんでいただけるメニューになるよう工夫した。また、ここ数年価格高騰のため実施できていなかった秋刀魚の炭火やきも 3 年ぶりに全事業所合同で開催し、炭火で焼いた秋刀魚を利用者に味わっていただくことができた。毎年恒例となったデザートバイキングも利用者の誕生日に合わせて実施することができた。行事食の最大の楽しみである回転寿司も 3 年ぶりに開催することができ、施設と在宅で 2 日間に分けて実施し、多くの利用者

しんでいただけました。

5年度からは厨房の委託業者が変更となるため、一日も早く安定した食事提供及び利用者を楽しんでいただける食事作りができるよう努めていきたい。
(文責：松本)

①栄養ケアマネジメント評価



《振り返りと課題》

4年度は退居者が13人と入れ替わりが多かった。栄養状態が改善したケースでは、夜間興奮気味で不眠が続いていた方について、医師に相談し薬の調整をしたことで徐々に不眠が改善していった。その結果、食事時の覚醒状態が良くなり食事量が増えたことで中リスクから低リスクに改善された。一方で、高リスク者の人数が増えた理由としては、褥瘡がある状態で新規入居されたケースや体調を崩して入院されて以降も食事量が改善しないケースがある。利用者の平均年齢は90.9歳と高く、食事摂取量が上がってもアルブミン値が改善しないケースも多い。

ミールラウンド（食事の観察）だけでなく、介護・看護と協力して管理栄養士も食事介助や口腔ケアを行っている。食事介助を行うことで利用者の嗜好も把握でき、食事量が減少した際には個別で好みの食べ物（あんこやみかん缶等）を提供し、少しでも食事量が増えて栄養改善ができるように対応している。また、口腔内の状況も把握でき、変化があれば歯科医師や歯科衛生士に相談する等、いち早く変化に気づき対応ができていていると感じる。

今後も食事に対する意欲や食事時の姿勢、義歯の状態、残渣、嚥せ、摂取量等、食事状況の観察を行い、一人ひとりにあった食事方法を検討、実施し、多職種で協力して栄養状態の改善を目指していく。
(文責：高尾)

②経口維持評価

3年度	4年度
5人	3人

《振り返りと課題》

誤嚥の危険の高い利用者を中心に歯科医師に指示を仰ぎ、口腔機能改善及び誤嚥防止に努めている。4年度は3年度から継続して取り組みを行っていた5人のうち4人が退居し、嚥下機能の低下が見られる利用者2人が追加となり3人になった。

歯科医師の指示内容を受け、覚醒した状況で食事ができるよう主に食前に口腔リハビリやマッサージ等を実践している。また、指示内容をケアプランに組み込むことで、実施状況の把握を行いながら、多職種連携して取り組むことができている。

嚥下状態の低下が見られ歯科医師の指導を受けたものの、その後すぐに亡くられるというケースがあった。食事介助や口腔ケアを行う際に、利用者の口腔機能や認知機能の低下を察知し、状態

が悪化する前に歯科医師の指示を仰げるように判断していくことが今後の目標である。

(文責：松本)

指導内容	ねらい
食前や食中に練り梅をすすめる	味覚刺激
呼吸力を上げる（ストロー・吹き戻し・ラップ等を使用）	噎せ予防
食前に舌のマッサージを行う	噎せ予防と唾液分泌の促進

5. 研修等

〔4〕施設内研修

(参加者) 各事業所の代表者

(開催日) 毎月第1金曜日

(目的) 年間研修計画に沿った研修を立案し職員のスキルアップに努める。

開催月	研修名
R04. 04	倫理及び法令遵守 接遇・個人情報 セクハラ・パワハラ防止
05	ターミナルケア
06	事故防止
07	食中毒 新型コロナウイルス感染予防 身体拘束、虐待防止
08	認知症ケア
09	褥瘡ケア
10	インフルエンザ・ノロウイルス感染予防 新型コロナウイルス感染予防 ターミナルケア
11	事故防止・リスクマネジメント (事例検討)
R05. 01	身体拘束・虐待 摂食ケア
02	排泄ケア

《振り返りと課題》

4年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、研修動画をWeb配信し研修を実施した。業務時間内での動画視聴ができることや研修参加への勤務調整や休日出勤がなくなる、研修作成のための経費削減と負担軽減ができていることから継続してWeb配信にて研修を行っている。しかし、内容によっては、事例検討等を行う必要もあることから、集合型の研修をどのように開催していくかが今後の課題となっている。

Trust Boardingのシステムを活用した社外コーチングやWeb研修については、職員によって利用頻度にばらつきが見られた。Web研修についても十分に参加できなかったことから研修委員会にて職員の悩みの状況や面談スキル等の状況を見て各職員にあった受講研修の選定を行い実施していきたい。

(文責:吉見)

〇砥部町デイサービスセンター





社会福祉法人 広寿会

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地

電話:089-969-2155 FAX:089-969-5151

H P:<http://www.koujukai-hirota.com>

M a i l:info@koujukai-hirota.com

ブログ:<https://ameblo.jp/koujukai-hirota/>



特別養護老人ホームひろた 短期入所生活介護事業所ひろた 居宅介護支援事業所ひろた

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地

電話:089-969-2155 FAX:089-969-5151



小規模多機能型居宅介護事業所 やまの里たまたに

〒791-2202

愛媛県伊予郡砥部町玉谷 670 番地 1

電話:089-969-5010 FAX:089-969-5011

ブログ:<https://ameblo.jp/yamanosatotamatani/>



砥部町デイサービスセンター(砥部町受託事業)

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 398 番地

電話:089-969-2211 FAX:089-969-5151

